

## 実践記録（小2・学級活動）

### 1 ねらい

順序立てて考え、課題を解決しようとするができるようにする。

### 2 手立て

- 自分の考えを整理するために、課題を解決する方法をカードに記入し、解決する手順になるように並び替えて、フローチャートを作成する。また、その通りに行えば解決ができるか検討・修正を行うことができるようにする。
- 整理した考えを基にして、ペアや学級全体など話し合いの場を設定することで、自分とは違う見方・考え方があることに気付かせ、児童は自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

### 3 実践の様子

2学期の終わりに行うお楽しみ会を児童に計画させた。お楽しみ会の実施日を3週間後に設定し、その日までに授業で活動できる6時間にやるべきことを考えさせた。

最初に、「お楽しみ会を迎えるまでに準備すること」について、順番に関係なく、思い付く限りロイロノートのカードに書かせた。お楽しみ会自体は、1学期にも行っているため、「1学期の時は、どんな準備をしたかな」と問い掛けると、「みんなでやることを話し合った」「必要な物を準備した」「何を話すかをメモした」などとカードに書き始めた。そして、書き出したカードを適当だと考える順番に並び替えて、当日までの流れをフローチャートに表させた。

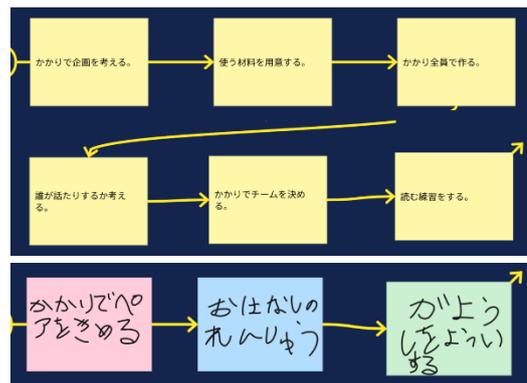
#### 【資料1】

次に、個人で作ったフローチャートを基に友達との話し合いを行った。話し合いでは、本番を迎えるにあたり必要なことが抜け落ちていないかを確認させた。そして、ペアでの話し合いを行い、必要な場合は修正するように伝えた。

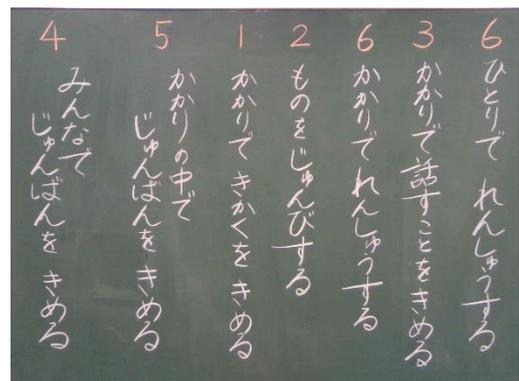
最後に、学級全体で6時間の計画について話し合った。ペアで話し合っ考えたことの中から、お楽しみ会に向け、必要だと思うことを発言させ、それらを黒板に列挙した。その中から、どのような順番で進めていくと良いか、ペアでの相談内容を基に全体で話し合い、6時間の計画を完成させることができた。【資料2】

### 4 成果と課題

- フローチャートに表したことで、手順が視覚化され、考えを整理したり共有したりすることが容易になった。
- ペアで話し合う際に、フローチャートの内容がほぼ同じ場合、話し合いが進まなくなってしまったため、もっとみんなが楽しめるお楽しみ会にすることができないか、考えさせるとよかった。



【資料1】 個人で考えたお楽しみ会までの流れ



【資料2】 全体で決めたお楽しみ会までの流れ